

ペイントであつと驚くトイレ

日本福祉大の関連会社エヌ・エフ・ユー(半田市)は、アートを通じて障害の有無にかかわらずいんクルーシブな地域づくりを目指し、運営するカフェ「くらすとユウナル東海店」(東海市)で先月29、30日、イベントを開いた。佐賀県の障害者就労継続支援B型事業所「P I C F A (ピクファ)」が、トイレのライブイベントを披露した。

(平木友見子)



⑤アートトイレを完成させた笠原さんと北村さん ⑥P I C F Aアーティストと同じ空間で創作活動をする子どもたち ⑦いずれも東海市大田町の「くらすとユウナル東海店」で

日福大関連会社の運営カフェ

インクルーシブ目指し 障害者アート披露

会社設立30周年記念事業の一環。障害者アート集団のP I C F Aは2002年、佐賀県のきやま鹿毛病院内に設立。現在は知的障害や自閉症、ダウン症などのある20人が創作活動をする。地元紙の連載小説の挿絵やテレビ番組のロゴ制作、即興のライブペイントの出演など、全国で活躍する。

P I C F A所属の笠原鉄平さん(46)と北村彰吾さん(29)が2日間かけて、カフェのトイレに作品を制作。専用マジックやスプレーで壁4面に、それぞれ「陸」「海」「空」「宇宙」をテーマにしてタコや招き猫、宇宙ステーション、鳥人間などの絵を描き、「ワンダーアクション」と題したユニークな空間を完成させた。

絵担当の笠原さんは「陸を描いたら海、空、宇宙とイメージが広がり、全部をつなげたら面白いと思って。楽しい時間を過ごしてもらえれば」、ステンシル

を担当した北村さんは「絵がメインなのでバランスを考えた。結構いい感じにできた」と話す。

日本福祉大卒業生でもある原田啓之施設長(49)は、「利用者がトイレをアート作品とみなすことで、きれいに使うようになって清掃回数が減る効果があると説明。一県内では初のアートトイレなので、多くの人に見に来てほしい」と呼びかけた。

所属アーティストと、子どもたちが同じ空間で創作活動をするワークショップも開催。母親の実家のある半田市に帰省中の兵庫県姫路市の幼稚園長、

ちゃん(5)は「絵を描くのは大好き。楽しかった」と笑顔で話した。約40名四方のキャンパスに描いた絵は、カフェに飾られる。また、カフェではP I C F Aのアーティスト作品12種類をコースターにして商品を提供し、9月ごろからはマグカップも登場する予定。